

## 財政通信 No.25

こんにちは。財政課長補佐です。

早いもので1年の3分の1が終わってしまいました。

財政通信、今年度は課員の持ち回りでいくことになりました。（「聞いてないよ」の声あり。）

財政課は6人なので、2か月に1回のペースでいけばちょうど1年で一回りです。（^o^）

さて、平成27年度予算は、29億円の財源不足から出発し、厳しい査定を経て無事スタートをきることができました。（詳しくは3月の財政通信 No.24 をご覧ください。）

今回は少し遅くなりましたが、今年度の予算のポイントについてお話しします。

ポイントその1は、「落ち込む市税と増える社会保障費」です。

自由に事業に使える一般財源は前年並みをキープしましたが、人口減少を背景に個人市民税が落ち込む見込みです。高齢化の影響で給与所得者が減り、年金収入の方が増えたのも要因でしょうか。土地の評価額も上がらないので、固定資産税も減る見込みです。景気が良くなり、企業の業績が上がれば法人市民税の増収が見込めますが、そんな楽観的な予測はできません。市税の減収分を、地方交付税と地方消費税交付金で補っています。地方消費税は消費税のうち、地方に配分される分です。昨年4月に5%から8%に上がりました。その増加分を1年通して見込めるのが27年度からなので、3億円の増を見込んでいます。

ですが、この地方消費税、社会保障費の財源に充てることが決まっています。歳出の扶助費は、昨年より5億円増えていますので全額そちらに充当されるイメージです。

社会保障費の主なものは、生活保護費（13億円）、障がい者自立支援事業（7億円）、子ども・子育て支援事業（16億円）、国民健康保険繰出金（7億円）や介護保険繰出金（7億円）など、削減が難しいものがほとんどです。4月から始まった子ども・子育て新制度は、幼稚園まで含めて市が給付費を負担するようになり、予算規模が倍増しました。

ポイントその2は、「安心安全にかかわる大型事業」です。

LED 防犯灯設置工事（1億円）では、市内の各地区の7000基の防犯灯を LED に取り換える工事を行います。

小中学校の非構造部材耐震改修（1億円）、平たく言うと、地震などに備えて屋内運動場のバスケットゴールなどを固定し、武道館の吊り天井を撤去する事業です。

庁舎新附属棟建設工事（2億円）は、業務拡大に対応するため、おもに会議室を建設するものですが、非常時には災害対策本部として機能する設備も配備します。

ポイントその3は、「市の将来を見据えた計画や調査の予算」を盛り込んでいることです。

佐貫駅周辺地域整備基本構想策定（600万円）、佐貫駅東口ロータリー交通調査・解析等

(1000万円)、新都市拠点開発エリア事業化調査(1500万円)など、このほか平成26年度の補正予算計上の「前倒し事業」にも計画策定の予算があります。

ポイントその4は、この「前倒し事業」です。平成26年度の3月補正で計上し、平成27年度に繰り越して実施する「前倒し事業」が多いことです。どうして27年度予算でやらないの?という疑問がわいてくるところですが、国の政策とのかかわりなのです。

国は昨年12月27日に、「地方への好循環拡大に向けた緊急経済対策」を閣議決定し、地方に「地域活性化・地域住民生活等緊急支援交付金」が配分されることになりました。

平たく言うと、「地方が12月27日以降に消費喚起のためか地方創生のための事業を補正予算に計上すれば、それに対して国は交付金を出しますよ。」というものです。それで急ぎよ、平成27年度予算に計上する予定だった事業(プラスα)を平成26年度の3月に前倒しで予算計上したのです。

大型プレミアム商品券事業(1億円)、若者子育て世代住宅取得補助(2千500万円)、道の駅整備基本構想策定(600万円)、まち・ひと・しごと創生総合戦略策定(1千万円)など、27年度の予算書には載っていませんが、実際は27年度の事業です。

地方創生というのは、国の人口減少対策にあわせて、龍ヶ崎市を定住先として選んでもらい、住み続けてもらうための施策をたてて実行する取組のことです。平成27年度中に地方創生のための総合戦略を策定しますが、前倒し事業はその先行実施分という位置づけです。

龍ヶ崎市を定住先として選んでもらう、結婚して子どもを生んで育てて、ずっと住み続けてもらう、書くのは簡単ですが、効果的な取組を考えるのは大変です。どこの市町村でも知恵を絞っているところですよ。

NHKの朝の連続ドラマ「まれ」、見てますか。パティシエを目指す女の子が主人公ですが、この「まれちゃん」輪島市役所に就職して、龍ヶ崎市でいう商工観光課のような部署に配属され、都会から輪島に移住してくる人の支援を担当しています。(5月上旬現在)

ドラマの中で「何のために仕事をしているのか」の問いに「目の前にある熱い思いを応援していくのが市役所の仕事なんじゃないか」と言うくだりがあります。文字にすると赤面ものですが、地方創生も「龍ヶ崎市に住んでもらえるように」「子どもを生んで育てられるように」「安心して住み続けられるように」それを応援するために何ができるかと考えるとシンプルかもしれません。

もちろん、何をしてもしっかりした財政基盤が必要です。財政課は、持続可能な財政運営に努力します。みなさんのご協力をお願いいたします。

無事、スタートした平成27年度、早くも6月議会に向けた補正予算の調製に入っています。次回は2か月後、平成26年度の決算がまとまったあたりでお目にかかれるといいかなと思います。

財政課2年目、決算統計担当のK主幹が担当する予定です。(「勝手に決めないで」の声あり)では、また次回(^\_^)/~